

小池一夫の訃報に接すツイッター相互フォローという淡き縁  
後 万智

生きるということは無数の「淡き縁」を作ること。こは、四月十一日に他界した『子連れ狼』の小池一夫氏である。まったく接点のなさそうな小池一夫と俵万智の小さな、そして意外な「淡き縁」。

我はいまアジア大陸さやさとアフガン帰りの人に  
酒注ぐ 佐佐木頼綱

「アフガン帰りの人」は、どこの国の人か分からないが、アフガニスタンにそまっているその男のまどう空気になじんで、自分が「アジア大陸」そのものに化している気分なのだ。アジアの島国である日本とはちがう空気に溺れてしまう感覚。

借り本に犬耳折りのページあり末の三行ほどに傍線  
本川みや子

「犬耳折り」というめずらしい語が出てきて、注目した。目印のために本のページの角を犬の耳のかたちに折ることだが、コンピュータ用語 Dog ear がブックマークの意味で使われている。

梅のころ納めし仕事に薔薇のころ口座にはらり振込  
岸並千珠子

金銭のことを歌にするのは難しいが、二種の花を出してさり気なく時間の移行を表現、そこにうまく金銭のことをからめた工夫が見どころ。「納めし仕事」は、イラストレーターである作者だから、出版社等へイラストを納めた意味だろう。

## 短歌の現在

### No.459 今月の15首を読む

#### 佐佐木幸綱

自らの生きる形を決めぬまま青春謳歌中の生コン

武藤義哉

不思議な状態を作品化した一首だな、と感心して読んだ。コンクリートミキサー車に運ばれてゆく最中のぐるぐる回っている生コンクリートをイメージすればいいのだろう。自分はこれから、ビルになるのか、橋になるのか、分らずに攪拌されつづけている生コンクリート。青春を謳歌しているのだとは知らなかった。

今後の事がありますからと部分点貫いに来る子昏き目をして  
児島直美

この作者の今月の一連には、いい成績を目指してよく勉強する中高一貫校の生徒たちがうたわれており、生徒たちの成績至上の姿勢をやや心配している作者の心が読める。この一首、内申書、推薦書などにかかわると、わずかな点数のために申し出てきた生徒に取材している。「昏き目」に作者のその生徒の未来への願望が読める。

電飾で照らし出されて氷川丸文化遺産の役演じおじ  
森祐希子

「文化遺産の役演じおじ」に作者の批評を読む。氷川丸を擬人化して、あたかもライトを浴びる舞台上の人のように描いている点が特色である。横浜の山下公園前に係留されて観光施設になっている氷川丸は、二〇〇七年に、経済産業省の近代化産業遺産に認定されたという。

洗淨の作業の最中痒き目を瞬き居りゴーグルの下  
高橋 秀

病院で医師が使うピンセットやメスを洗淨・消毒して